

設 立 趣 旨 書

1. 趣 旨

21世紀の人類には深刻な問題が山積しておりますが、その中でも環境の問題は特に重要であると考えています。地球温暖化・オゾンホール・森林破壊による海洋汚染や生態系の変化、この影響から動物達の生息が危ぶまれ、食糧を里山に求めるため人里に出没して被害をもたらすと云う悪循環が生じています。山林を自然本来の有るべき姿、いわゆる四季を感じる姿に戻せるならば、動物による人や里山の被害も最小限にいとどめ、又荒んだ人の心を取り戻し人間対人間、人間と自然との共存を取り戻すことが出来るのではないかと考え森林の修復と保護を実践することに致しました。又最近の人口減少の加速、生活様式、働き方改革、それに加え地球温暖化による気候の変動による生活リズム、自然の対応など一大転換の時代を迎えている今複雑多様化する現代を余儀なくされている私たちは、職場、家庭、学校生活でのストレスを増大させ、社会から孤立する人を増やしています。

共働きの家庭が増大、核家族化の中で母親は孤立し、心身の余裕を失い、子育てに疲れているように思えます。又子ども達は幼少期よりスポーツクラブや塾通いに忙しく、ハンバーガーなどのファストフードで食事をするなど、食事の配慮、家族団らんの取り方に問題があり、心が触れ合う時間が充分でなく共感性、協調性の欠如にも関係していると思われます。いじめ、不登校の問題もその延長上にあるのではないのでしょうか？

大人を取り巻く社会環境も、職場ではITの開発、宇宙の開発、ロボットの開発等々科学的には進歩していますが、経済苦、家族の絆の希薄化などの格差は増大し、ストレス過多の社会になっており、メンタルヘルスの重要性が叫ばれています。又急激に進む高齢化や生活習慣の多様化により、生活習慣病の増大や要介護状態に陥る人の増加など一億総半健康人と云われています。

このような社会環境の中、自然環境が人の心を癒してくれることを書いたヘンリー・D・ソローの名著「森の生活」にインスパイアされ、萌木の村は産声をあげ、全村民参加でナチュラルガーデンを作り、今では全国、世界中からいやしを求めて大勢の方々が来場されていることを知り、ここ篠栗でも創設出来ると思い企画してみました。

2. 申請に至るまでの経過

令和7年12月1日	発起人会を開催。設立の趣旨、設立当初の役員等の原案について審議。
令和8年 5月1日	発起人会を開催。定款、事業計画及び収支予算書、役員などの原案について審議。
令和8年7月19日	設立総会を開催し、上記原案について提案があり審議の結果決定。

令和8年 8月10日

特定非営利活動法人「いのちの森」

設立代表者

小島 誠子